

調査状況はどうか。

市長 市内小中学校施設で、耐震調査が必要な建物は、文部科学省の指導によると、昭和56年以前の建築物で2階建て以上または床面積が200平方メートルを超えているものであり、実住小学校の体育館、笹引小学校、交進小学校、二州小学校沖分校、川上小学校の校舎と体育館が対象となります。そこで、小学校は、平成16年度に耐震化優先度調査を実施し、中学校は平成17年度に同調査を行う計画です。

問 国の中央防災会議の専門委員会は、千葉県中央部直下型の地震で八街の被害想定を死者5名、建物倒壊143棟、ブロック塀の転倒が1千579件、水道管破損が84力所等としている。ブロック塀の他に、石塀の転倒率は64.1%と大変高い比率となっている。ブロック塀、石塀の転倒の防止にどのように取り組むのか。

建設部長 ブロック塀等の新設をする場合、建設部の都市計画の方で指導を行なっています。

問 市の防災計画では、既存のブロック塀や石塀につ

いて、通勤、通学路等を中心とした点検、パトロール、または危険なブロック塀については補強等の改善を指導していくとしていながら、なぜ積極的に取り組まないのか。子供たちの安全のために、通学路と4本の緊急輸送道路沿いのブロック塀の点検を早急に行うべきであるがどうか。

建設部長 ブロック塀、石塀等は、私的財産ではありますが、いま議員ご指摘のように先ほどの4本の道路の点検は今後考えていきたい。

丸山 この間、個人的な財産であるために積極的に改善の指導ができないでいる。八街市は平成9年度につくった緑の基本計画で生垣設置の助成制度を創設し生垣化を推進している。通学路等におけるブロック塀補強・生垣の設置への改善に、是非こういった助成制度を導入していただきたい。

便利なふれあいバスの運行を

問 八街駅前の待合い場の屋根は、「骨組みだけの屋根のため、雨よけにも日よ

けにもならずバスを待つ間、困っている」という利用者からの苦情がでているが、改善計画はあるのか。

市長 3番バス乗り場前には簡易ではあるが、屋根つきの待合所もあり、駅自由通路も荒天のときは、待合の場所として使用することができます。南口駅前広場の形状の見直しについても検討していく必要があるが、すぐの対応は考えていません。

問 新たに5コースとなり2年目を迎えています。当時最善の内容として出発したもの、実際に運行してみると「JRへの接続が悪く不便」、「病院に行くのに早すぎ、増便して延ばして欲しい」等の要望があり、運行協議会の再開で利用者の要望にこたえるべきと思うがどうか。

市長 増便に視点を置いた運行の見直しは難しい。利便性の向上と収支の改善の双方に視点を置いた研究を進めるとともに、今年度中もしくは来年度にふれあいバス運行協議会を設置し、次の改正に向けた検討を進めたい。

五日会

林 義雄
林 政男

個人
質問
林 政男

榎戸駅の快速停車

問 現在の状況はどうか。

市長 現在、運行している快速電車は、成東駅始発で、東京駅行きの八街駅午前7時20分発の上り1本のみです。JRによると、電車の全長に満たないホームでは、安全確保の観点から、ドアの開閉は行えず、利用客の乗降はできない規則があり、この快速電車は11両編成で全長約220mになり、上りホームの長さが180mほどの榎戸駅では、この快速電車は利用できないとのことです。

問 今後の本市の取り組みについて。

市長 本市では、総武本線沿線の近隣自治体である成東町、山武町、酒々井町とともに、総武本線成東・佐倉間快速電車増発推進協議会を設置して、成東・佐倉間における快速電車増発の実現を目標とした活動を展

開しています。この活動の中で本市は、八街駅、榎戸駅の両駅とも、快速電車停車の実現を目指しており、昨年11月には、JR千葉支社に、成東駅、日向駅、八街駅、榎戸駅及び南酒々井駅における快速電車停車に対応するためのホームの延伸及び快速電車の増発を早期に実現するよう要望してきました。しかし、昨年10月に発生した新潟県中越地震による被害の復旧・耐震性強化の対応策に多大の費用を費やすことや、成東・佐倉間における利用客の減少などの理由から、すぐに快速電車の増発は難しい状況であると支社長から示されました。

今後、駅利用者への利便性の向上を図るため、目標を共有する沿線自治体との連携を強化し、総武本線快速電車増発及び複線化促進を図る市民会議を通してJRに対し、1日7早い快速電車増発の実現に向けた働きかけをしていきます。

一日7早い快速電車停車(写真:榎戸駅)

